

# 空転してもATS-Pが動作しない仕組みと空転による遅れを運転士の責任にするな！

名古屋地本は電車発車時などにおける、空転の発生と空転に伴うATS-Pの動作などによる遅れ問題が発生している事に関し、会社と2月5日、申6号で申し入れた「閑散線区の空転問題について」業務委員会を開催した。

## 要求内容と会社回答

1. 閑散線区での空転は、どの様な問題が発生するのか具体的に明らかにすること。

回答：閑散線区に限らないが空転の発生より加速が出来なくなり列車に遅れが生じる場合がある。

2. なぜ、空転が発生するのか原因を明らかにすること。

回答：レール面に付着した霜、雨の水分、落ち葉などがあると空転し易くなる。

3. 閑散線区での空転に対する会社の対策と効果を明らかにすること。

回答：必要な対策を実施している。

4. 現在、砂まき装置に砂ではなくセラジェットを使用しているが、砂の方が空転には効果があるので砂を使用すること。

回答：現在は砂を使用しており質問の趣旨が不明である。

5. 空転によりATS-Pが動作した回数を明らかにすること。

回答：明らかにする考えはない。

6. 指令は空転による列車の遅れに対して、空転発生を予測していながら「なぜ遅れているのか」などの運転士に対するプレッシャーを感じさせる指令からの無線を入れないこと。

回答：必要な遅延理由は正確に把握する。

7. ある運転職場では、少しでも空転があれば指令に報告するようにと指導しているが、なぜ報告するのか明らかにすること。

回答：規程に定められているとおりである。

8. 空転によりATS-Pが動作しないように改良すること。

回答：適時、適切に対応している。

## 主な議論

組合：空転による問題は列車の遅れ以外に車両故障などの心配はないのか。

会社：保護回路があるから、その心配はない。

組合：空転でATS-Pが動作し止まる事は問題ではないのか。

会社：様々なケースがあるから。

組合：ATS-Pが動作して止まっているがその様な認識はないのか。

会社：空転の結果としてその様な事象が発生している事は認識している。

組合：原因の一つとして車両が軽くなった事もあるのではないか。

会社：直接的には車両が軽くなった事が原因ではない。

組合：軽くなり加速がよくなった事が空転を発生させているのではないか。

会社：空転しない様に制御方式を変えている。

組合：空転でA T S－Pが動作するのは車両を守るためなのか。

会社：そうではない。

組合：飯田線では1時間以上遅れて車両を壊したこともあるが知っているか。今まで空転に注意する様にと言われた事がなかったが最近言われるようになった。これはA T S－Pが導入されたからではないか。

会社：基本的には空転をさせないことが大切。制限以上の速度が出ているから動作する。

組合：空転に対する具体的な対策はなにか。

会社：落ち葉がかからないように木の伐採と急発進、急加速をしないように指導している。

組合：今の車両は急発進、急加速しないように制御されているのではないか。

会社：きざみノッチを懲遡している。

組合：2 1 1系は起動時の電流値を低くしていた。また空転検知器の感度と制御機能を高め空転と速度オーバーと違いを判断できる様にするとか、速度を正しく検知する仕組みを作り、A T S－Pが動作しない様に対策を考えるべきである。セラジェットを止めたのはいつからなのか。

会社：昨年1月以降順次行ってきた。

組合：なぜ止めたのか。変えた理由は。

会社：総合的な評価を見て判断した。

組合：コストなのか。

会社：それもある。

組合：セラジェットはフランジの変摩耗があったのではないか。

会社：トータル的にそれらもあるかと言える。

組合：飯田線では車掌が砂を撒いている。車掌には砂を撒く教育は行われていない労災の心配もある。

会社：その様な現実はつかんでいない。

組合：早急に教育を含め対策を行うべきである。空転で列車が遅れた時、指令員からいろいろ聞かれるが運転士にプレッシャーとなっている。

会社：遅れの理由を把握することは必要。

組合：指令員は何が一番聞きたいのか。聞く場合は必要最低限にすること。

以 上